

2020年シンポジウム：「Japanese Nurse Practitioner (JNP) の先進的イノベーション -医師と考えるJNPの更なる活動-」

これからの医療ケアチームで求められる診療看護師の真価 -チーム医療に関するコンピテンシーの質的研究を通じて-

伊藤 健大[†] 森 英毅

第74回国立病院総合医学会
(2020年10月17日～11月14日
WEB開催)

IRYO Vol. 76 No. 3 (210-214) 2022

要旨

近年、医療の専門分化・高度化、複雑なニーズをもつ患者の増加などの要因から、チーム医療の重要性が強調されている。診療看護師 (Japanese nurse practitioner : JNP) の7つのコンピテンシー分野のうち、チーム医療の実践能力は、とくに重要な能力である。筆者らが行ったJNPのチーム医療コンピテンシーに関する質的研究において、JNPは患者やその家族などに限らず、組織や部門などの集団も対象としていること、対象が抱えるニーズや問題を抽出・整理し、多職種をコーディネートしてその問題に取り組み、継続的に評価していることが明らかとなった。さらに、このチーム医療に関するコンピテンシーは、タキシノミーの3領域において、合計7つのカテゴリーに分類された (知識：チームメンバーの役割と機能・実践範囲の統合、問題の統合。技術：チームダイナミクスの促進。態度：リスペクト、オープンマインド、橋渡しとしての自覚、患者ケアにとどまらない態度)。

患者ケアの調整、医療ケアチーム間のコミュニケーション促進、多職種のコーディネートや連携は、JNPにとって重要な能力である。JNPには、患者へのケア提供にとどまらない分野を超えた医療チームを率いるスキルが求められ、それらを実践できることはJNPの価値となりうる。また、JNPと協働した経験のある総合診療医の立場から、家庭医療分野と共通するJNPの課題を見だし、JNPの今後の発展性・展望について述べる。

キーワード 診療看護師, 総合診療医, コンピテンシー, チーム医療

はじめに

国立病院機構長崎医療センター (当院) は、長崎県の中央部に位置する643床の高度総合医療施設であり、離島医療圏を含む地域医療を担っている。当院では、2014年度より診療看護師 (Japanese Nurse Practitioner : JNP) が活動しており、総合

診療科と救命救急センターを軸とした2年間の大学院卒業後の臨床研修をプログラムし、さまざまな領域やあらゆるヘルスケアの場で、患者ケア・家族ケアを実践できるJNPを育成している。研修終了後は、「チーム医療のキーパーソン」、「地域医療の担い手」という2つの軸をもとに実践している。

近年の医療の高度化・専門化、患者背景の変化や

国立病院機構長崎医療センター 総合診療科 [†]診療看護師
著者連絡先：伊藤健大 国立病院機構長崎医療センター 総合診療科 診療看護師
e-mail : c200403008@gmail.com
森 英毅 国立病院機構長崎医療センター 総合診療科 医師
e-mail : mori.hideki.fu@mail.hosp.go.jp
(2021年6月25日受付, 2022年2月25日受理)

The Value of the Japanese Nurse Practitioner in the Medical Care Team : Japanese Nurse Practitioners' Interdisciplinary Practice Competencies : A Qualitative Research
Takehiro Itoh and Hideki Mori, NHO Nagasaki Medical Center
(Received Jun. 25, 2021, Accepted Feb. 25, 2022)

Key Words : nurse practitioner, general practitioner, competency, interdisciplinary practice